



SWINGMAX

スイングマックス

小学校1、2年生から少年野球チームに入部する子供たちが増えてきました。しかしバットを含めた野球道具のほとんどは小学校4～6年生をメインターゲットとした商品が多く、このような子供たちをターゲットにした商品というのは少数です。そこで、野球を始めたばかりの子供たちが「どのようなバットを必要としているのか、どのようなバットがあればよいのか」を追求し、商品の開発を進めることにしました。

子供の声

子供たちに「どのようなバットが欲しいですか」という内容でヒアリングしました。

重いので
軽くしてほしい

グリップが太いので
細くしてほしい

軽くて長い
バットが欲しい

長いので短い
バットが良い

ヒットが出やすい
バットが欲しい

芯が広い
バットが欲しい

ミスの分析

子供たちの練習風景を観察し、バッティング時にどのようなミスがあるのかを分析しました。

ボール球を振る。
どんなボールでも
振りに行く

体が開いて
内側の肩が下がる

芯に当たらない

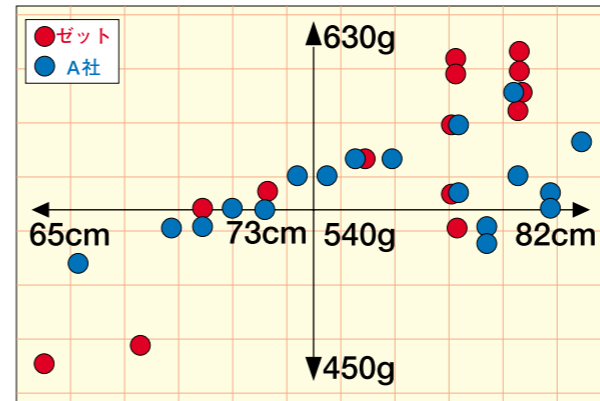
自分の体に合った
バットを使っていない

**「自分の体に合ったバットを使っていない
もしくは体に合ったバットが存在しないのでは」**
という仮説を立てました。

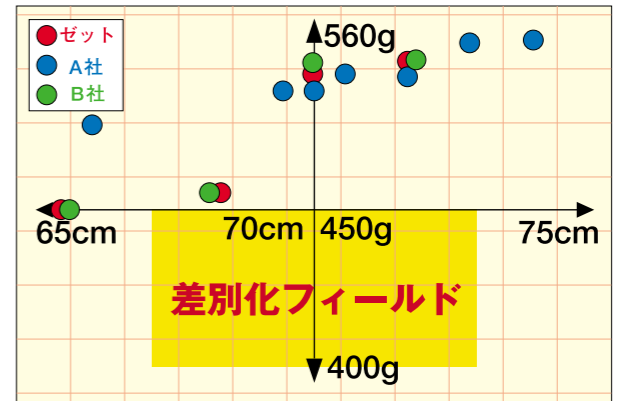
検証① 他社製品とのポジショニング比較

どのような長さ・重量のバットを開発すれば良いのかを考えるにあたり、市場においての少年用のバットの商品展開を、他社製品との比較も含め、「重量と長さ」という基準でマップを作成しました。

(図1)を見てみると少年用のバットの重量は540g以上が大半を占めています。また、(図2)を見てみると、最も軽いバットで65cm・450gという重量です。



(図1) 少年用バットの重量と長さの分布



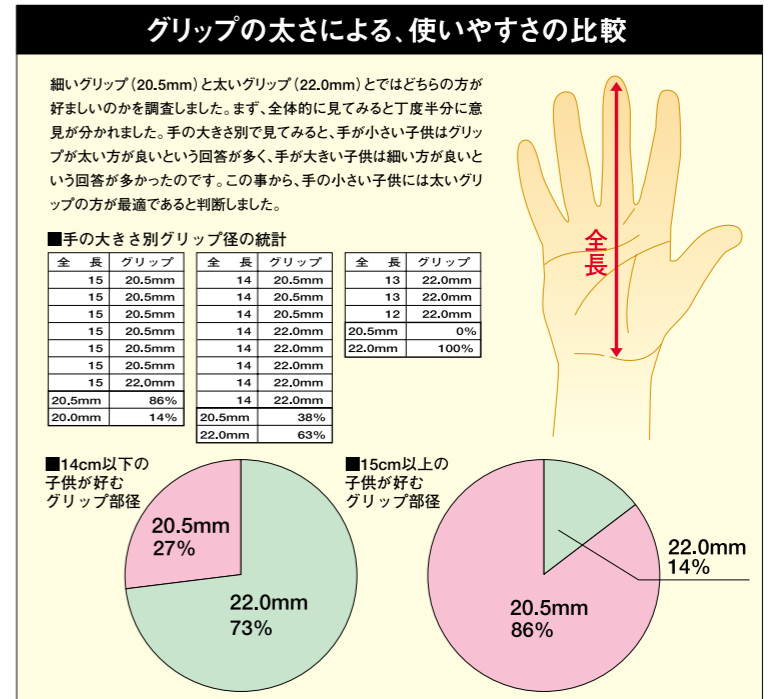
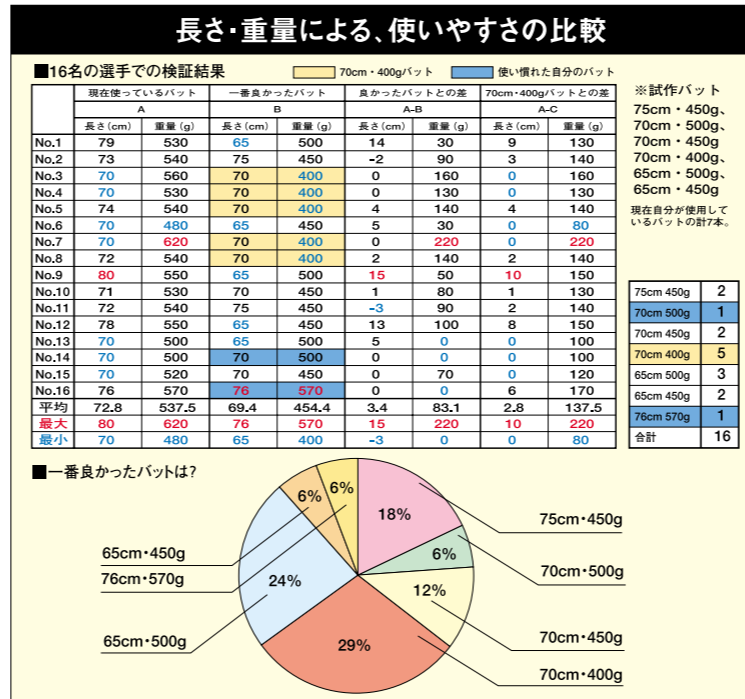
(図2) 低学年向けバットの重量と長さの分布

検証② 試作モニター調査

1、2年生が実際に使用しているバットの長さ・重量と、子供たちに最適なバットの長さ・重量を見極めるためのモニター調査を実施しました。

市場に存在しない重量のバットも含めて、長さ3タイプ・重量3タイプの合計9種類のバットを試作し、小学1、2年生がボールを打つのに、最もミスの少ない・最も使いやすいバットを調査しました。そこからさらに6種類に絞込み、子供の私物のバットを含め、7種類のバットと比較し、身長120cm台・体重25kg～30kgの想定ユーザーが、ミスしない使いやすいバットを特定しました。右の表を見てみるとほぼ全員が、自分が使いやすいと感じたバットよりも重いバットを使用していることがわかります。最大で220g、平均でも約83gもの差があります。このモニター結果から、「子供たちは自分に合ったバットを使っていない」ということがわかりました。

また、長さ・重量については70cm・400gのバットが29%と最も支持が高いのに上記(図2)のマップから、70cm・400gというバットは市場には存在しないという結果も出ています。



つまり、「子供たちの体に合ったバットが存在しない」ということがわかりました。

以上のことから
70cm・400gという長さ・重量に、たどり着きました。

開発にあたってのポイント (70cm・400gバットの問題点)

野球をはじめた1年生が親に購入してもらったバットは親の主観や見た目のデザインが優先され、本来重視すべき、子供たちが「使いやすい」と感じる商品が販売されていません。また、野球を始めたばかりの子供には、分不相応という思いからか6,000円未満の商品しか売れません。そのため、メーカーもなるべくコストのかからない素材・工程でバット本体を製造しています。高強度の材料を使用すれば、400gのバットは作ることは十分可能ですが、10,000円程度の価格になります。高価格の材料を使わず、最大限引き出せる強度を生産技術でカバーし、低価格帯での商品化が最大の壁でした。

SWINGMAXに込めた思い

ネーミング・デザイン

商品名「SWINGMAX (スイングマックス)」には「カー杯スイングできる」という意味を込めています。デザインも「カー杯のスイング」をイメージできるようにバットを振り抜いた選手をバットのデザインにしました。

子供たちに対して

野球で最も大切なことはまず「楽しい!おもしろい!」と体感できることです。特に、これから野球を始める子供たちには「野球が楽しい」と体感して欲しいという強い思いがあります。このSWINGMAXを使うことにより、軽々スイングでき、しっかりとボールを捉えられる事で、野球が楽しくなりそして、野球を好きになって欲しいと考えています。野球を好きになる子供が増えることにより、将来的に野球人口の増加に繋がればと考えています。